

< 短編映画「ミラー（仮）」企画書 >

【作品の狙い】

<こんな映画にしたい！～作品イメージ～>

クローネンバーグ「戦慄の絆」とリンチ「ブルー・ベルベット」の融合！双子の姉妹が男を取り合う話。1人の俳優が2役を演じる。双子の精神状態が崩壊していくのと同時に、観客も一体今見ているのは姉と妹どちらの世界なのか、分からなくなってしまうような、そんな幻惑的な世界観を作りたい。

<中国人俳優を起用した映画作りをしたい！>

縮小を続ける日本映画市場だけを見ていたら、拡大する中国映画にいずれ飲み込まれてしまう。日本映画や中国映画というカテゴリーではなく「アジア映画」という大きな括りで映画を作れるようになりたい。本企画はそのための第一歩として、まずは中国の俳優たちとの映画作りをし、日本と中国両方の映画祭で注目を集めるものとしたい。

【内容】

<ログライン>

リンとフェイは一卵性双生児。東京で同居生活を送っている。リンは恋人である哲史とフェイが関係を持ったのではないかと疑う。リンは精神のバランスを崩して、妹と恋人を殺す。

<主な登場人物>

リン／リン・フォン（26）……………双子の姉。内向的な性格。
フェイ／フェイ・フォン（26）……………双子の妹。社交的な性格。
哲史／真田 哲史（さなだ てつし／30）……………リンの恋人。

<ジャンル>

サスペンス、スリラー

<撮影フォーマット>

HD/25min/日本語、中国語

◎ ロングプロット

東京で働く中国人リン・フォン（26）は双子の妹のフェイ・フォン（26）と2人暮らし。リンはマジメで内向的な性格、フェイは明るく外交的。性格も趣味も違う2人だが、唯一男の好みだけは一致していた。

ある日、恋人の真田哲史（30）のところに向かったリンは、哲史とフェイがキスしているところを目撃してしまう。

家でフェイが戻るのを一睡もせず待つリン。何事もなかったかのように朝帰りするフェイはリンに友達と飲んでいたと言う。

○

フェイが哲史と知り合ったのは三ヶ月前。リンはフェイにその日は帰ってこないでと頼んで、哲史を自宅に引き入れた。家で哲史と飲んでいたところにフェイが戻ってくる。お金を渡してフェイを追い出そうとするリンに哲史は「三人で飲もう」と提案してくる。

その日を境に三人で会う事が増える。哲史の趣味のラジコンヘリを飛ばす遊びにもついてくるフェイ。楽しそうな2人に腹が立ちながらも何も言えないリン。

○

現在。リンはフェイの部屋に忍び込む。寝ている彼女の首に手をかける。その姿をスタンドミラーで見たところから彼女の精神が壊れだす。

過去。リンはフェイを問いつめる。フェイは「私は哲史に手を出していない、ちょっかいを出してくるのは哲史だ」と彼からのメールを読み上げる。リンは聞くにたえず、自分の部屋に閉じこもる。リンは「あんな男と別れろ」とリン自身に迫る。リンの目にはベッドで哲史が、自分なのかフェイなのか分からない相手と絡みあう光景が見える。

○

目を覚ましたリンはフェイの服装をして哲史と会い、フェイとして哲史と関係を持つ。家に哲史を招くリン。哲史に自分はリンだと明かし「双子とヤった気分はどう？」と聞く。フェイの部屋から漂う何かが腐ったような匂いから異常を感じ立ち去ろうとする哲史。リンは包丁を掴み、哲史を追う。

洗面台の鏡に写る血まみれの女の顔。女は蛇口をひねる。お湯を出す。血まみれの手を洗う。排水溝に流れていく赤い色の湯。湯気が鏡を次第に曇らせていく。

(了)